

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.46 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 23 年 10 月 20 日発行

公開講座 自然談話室

飛騨の野鳥記録をたどる

講師：田之本 克己 (運営委員)

『万葉集』『斐太後風土記』から『飛騨・おしどり夫婦の傷病鳥奮闘記』などの文献から見る飛騨の野鳥

日時：11月15日(火)午後7時より 場所：高山市民文化会館

自然観察会を日和田高原で行ないました (7/9)

「初夏のチョウを楽しもう」と題して7月9日に高山市日和田高原で鈴木俊文さんの指導で自然観察会を行ないました。今回の観察会は、日本自然保護協会が毎年行なっている「自然しらべ 2011・チョウの分布 今・昔」の呼びかけに呼応しての開催でした。

「高山駅西周辺整備についての提言」を提出しました (8/3)

高山市中心部の高山駅西の広大な土地の利用にあたって、高山市が進めている高山市駅西整備事業について当会は提言をまとめました。提言では「総合交流センター整備のみに終始することなく、飛騨地域で生育する広葉樹などを植栽した「飛騨の森」を象徴するスペースを創る」としています。この提言書を8月3日、高山市役所において國島高山市長に面談し、市長及び高山市総合交流センター検討委員会に提出しました。

乗鞍フォーラムが開催されました (9/17)

乗鞍岳・乗鞍スカイラインについては、これまで主に乗鞍自動車利用適正化協議会が主体となって管理運営・利用計画がなされてきましたが、今回始めて市民の意見も聞こうと市民参加型のフォーラムが開催されました。パネルディスカッションには当会の飯田会長もパネラーとして当会の考えを発表しました。(主催は乗鞍自動車利用適正化協議会)

初夏のチョウを楽しもう in 日和田高原

松崎 まみ

2011・7・9 8:00~13:00 参加者：29名、観察されたチョウ：27種

下界は34℃の暑さになったが、薄曇りだったので過ごしやすい一日だった。しかし陽射しがほとんどなかったため、出たチョウは少なく27種のみ。(ミドリシジミの仲間が見られなかった。ウラジャノメもいなかった。…鈴木さん談)

小さな子から年配者まで、全員捕虫網を持って走り回った。一頭捕獲するたびに鈴木さんの元へ駆け寄り、名前や性別を教えてもらった。実際にチョウを手にとり、模様を確かめ図鑑と見比べながら調べたり、スジグロシロチョウはレモンの香りがすると教えられ、鼻を近づけてクンクンと五感を働かせる活動はとても楽しい体験となった。

観察会の後は、みんなで輪になり昼食を楽しみながら情報交換し、チョウ合わせ(観察されたチョウの名前を確認まとめる事)も行なった。

「なぜオスの方が多いのか？」との質問が出ると、鈴木さんは「メスは天敵に見つからないような動きをしているから人間の目につきににくい」と説明をしていただいた。鈴木さんは観察会のために二度も現地の下見をして、この時期出そうなチョウ100種ほどのリストを資料として配布して下さった。そのおかげでスムーズに記録ができ、チョウ合わせも全員で行なうことができた。



観察会スタート



チョウを追う子どもたち



二刀流の人も



蜜を吸うヒメシジミ

◎ 参加者の感想

今回のチョウの説明を受けながら、僕はまた一つ大きな勉強をさせていただきました。自然は好きですが、樹、花、虫、動物、鳥などには全く疎いのです。先生のクジャクチョウの説明の中にギリシャ神話が出てきたのには驚きました。何か一筋の道を行って見える人の、知の広さに感動しました。

※ 観察会で捕獲したチョウは、識別などの観察後、放蝶しています。

※ 自然しらべ…近所の自然の中へ出かけて行って、どんな自然の姿になっているのかをみんなで調べてみようとして1995年から毎年テーマを決めて全国に呼びかけている。

「飛騨山脈」を世界自然遺産に！

小野木 三郎

『サルボボ』10月号、(2011年9月28日発行)の《奇跡の星・地球の詩》で大森清孝氏が、「飛騨山脈を世界遺産に」のタイトルのもと、乗鞍フォーラム(9月17日開催)にパネラーとして参加され、飛騨山脈を世界遺産に申請したらどうかと提案されたことを述べておられます。意を同じくされる同士が居られることが判明し、心強く思っているところです。

といいますのは、従来から高山市環境審議会の委員をしています、平成23年4月より、2年間の任期で新しい審議会が発足、その第1回会合が去る7月19日(火)に開催、国島市長より直接委嘱状が交付され、今年から大森氏も委員に入られました。この審議会で、「生物多様性ひだたかやま戦略—その実施行動計画」が策定されたことに関し、私は、だれが主人公となって、どんな具体策、具体的目標を立てて行動するのか、そこまで事例としてしなければ、戦略も実施行動計画も、絵に描いたもち、ただのお経の空念仏に終わってしまう心配が絶大だ。その具体的一つの案として、飛騨山脈(御嶽山を含めて)をユネスコの『世界自然遺産』登録の運動を高山市が先頭切って、岐阜県・長野県・富山県と協力・歩調を合わせて行なうべきであると発言したのです。市長さんはじめ、審議会出席委員全員が耳にされているはずです。

さらに、山楽山歩海外の山旅41回目、「カムチャッカ花見旅」のレポートを、岐阜新聞県内総合版に連載した折、9月4日(日)の最終回の締めくくりとして、《〜こうした諸々の特徴を考えると、飛騨山脈(通称北アルプスの峰々)こそは、『世界の自然遺産』たるにふさわしいと思えてきます。〜スイスアルプスや北米アラスカ・カナダなどの山を体験した上で、そう実感するのです。》と書いています。審議会での発言とか新聞記事とかの以前からの私の発案・発言が、多少なりとも大森氏に伝わり、乗鞍フォーラムでのパネルディスカッションに反映されたというのであれば、言い出しっぺの小生としても嬉しい限りです。間接的にフォーラムに参加できたことになります。

動植物の学名の命名など、学問上では先取権というものが優先・重要視されます。一日一刻とも先に公の場での発表・印刷刊行が必要です。私は、昭和36年に御嶽山の植生調査を大学の卒論で手掛け、あれから半世紀近く、飛騨山脈一帯をフィールドに植生調査、生態調査、そして自然の観察活動、教育普及に尽力してきた一応の専門家のはしくれの一人としては、それなりに飛騨の山々の自然研究者としての誇りと自負があります。今回の『乗鞍フォーラム〜ともに考える明日の乗鞍〜』(ぎふ清流国体・ぎふ清流大会応援事業)は意義深い大きな催し物でしたが、当日は以前より「自然観察指導員講習会」の講師の予定があり参加できず残念でした。しかし、私が先陣を切って言い出した「飛騨山脈を世界自然遺産に登録を!!」について大森氏が結果的には代弁して下さったことになり重ね重ね感謝申し上げます。

飛騨山脈が「世界自然遺産」たるに十二分な特色・特質、それは世界に例を見ない高山帯ハイマツ低木林・樹海景観のこと、世界一強風で多雪な高山帯・地質・地形の見本園…等々、一冊の本に仕上がるくらい具体的根拠はすぐにも挙げられますが、今は紙面が尽きました。別の機会に、“パワーポイントデビュー”も果たしつつ、自然談話室でも語りましょう。

乗鞍フォーラム

フォーラムには約310名の参加者があり、ディベート、パネリスト、会場参加者から規制継続、規制緩和の発言が聞かれ、“乗鞍の明日を考える”にはよい機会だったのではないかと。ただ規制緩和・廃止の意見には“未来”が感じられない。来年度は「適正化方針」で3年に一度の見直しの年、今回のフォーラム・アンケートも参考に検討されるという。

◎ 8月3日に高山市に提出した「高山駅西周辺整備についての提言」を掲載します。

高山市長 國 島 芳 明 殿
総合交流センター検討委員会
委員長 六 角 裕 治 殿

平成23年8月3日

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会
会 長 飯 田 洋

高山駅西周辺整備についての提言

1 提言の趣旨

高山駅西地区の整備において、飛騨地域で生育する広葉樹を植栽するなど、「飛騨の森」を象徴するスペースを創って活用すべきである。

2 提言の要旨

高山市は、森林林業、及び生物多様性の啓発活動の一環として、2011年に横浜国立大学の宮脇昭氏の講演会を開催しましたが、同講演において宮脇氏は「その土地に潜在の樹木、ニセモノならぬその土地のホンモノの樹木、多樹種を混ぜて植えましょう。3年経てば管理は要らない。市民のいのちと遺伝子を守り、豊かな未来を保障する21世紀のふるさとの森づくり、今すぐやれることから始めよう。市長、行政マンが先頭に立ち、市民も主役となって、森づくりに取り組もう。」とおっしゃられました。

それは、「ホンモノの森づくり」を高山市から世界へ発信すべきであり、高山市が地方公共団体の先駆けとなって「地域経済と共生する森づくり」を進めるべきとの提言であろうと思われます。

他方で、市は『生物多様性ひだ高山戦略』『その実施計画』を策定しています。つまり、「ホンモノの森づくり」は、生物多様性の実現に向けた実践の第一歩となるものだということです。

そこで、市が現在進めている高山駅西地区の整備計画において、従前から計画されている箱物としての総合交流センター整備のみに終始することなく、飛騨地域で生育する広葉樹などを植栽した「飛騨の森」を象徴するスペースを創ることを提言します。

2 理由、及び、森づくりの具体的施策

① 飛騨地域に潜在する樹種、宮脇氏の言うところのホンモノの樹種は、ブナ、イヌブナ、ミズナラ、トチノキ、カツラ、ヤマザクラ、コナラ、ホオノキ等、夏緑広葉樹です。

春に芽吹いた新緑は、夏になれば色濃く繁茂して、年々強くなる陽射しを遮り、秋には色づき、実や花は野鳥などの動物の餌になります。

それは、日本の生物多様性、四季の移ろいの微妙な美しさ、つまり、日本の自然の象徴であり、国際的観光都市“飛騨高山の玄関”に最もふさわしい景観だと考えられます。

② もちろん、海外からの観光客のみならず、市民にとっても、市街地の気温を下げ、CO2を吸収し、空気を浄化する夏緑広葉樹の森は、涼風を感じ、マイナスイオンを吸って安らげる大きな癒し空間です。

③ また、それらの苗木は、入手しやすいというメリットもあります。国有林・私有林を問わず山間部には実生からの幼木がいくらでもあります。これらの苗木を山林所有者の協力を得、市内全域の各家庭・親子から、苗木の愛育者を募って、1、2年鉢植えして維持管理していただ

き、ある程度成長した時期に植樹祭として一斉に植樹する。市民が参加し、とりわけ子どもたちの手でこうした植樹を行なうことは、10年、20年、50年先の夢へと繋がります。

- ④ 明治神宮の森は、自然林・原生林と受け取られがちですが、これは100年先を見込んで人工的に植林した都市部での森づくりの見本です。

また東京駅間近なビル街に囲われた皇居の中には、昭和天皇の意向で雑木林が整備され、四季折々多様な草木が花咲いています（春にはキブシ、マンサク、コブシ等）。

それに対し、岐阜県は、岐阜市長良の“未来会館”、下呂市の“御岳少年自然の家”を閉鎖する傍ら、“世界生活文化センター(内部のミュージアム飛騨は閉鎖)等大きな箱物建築物の維持が手に余り、外部への指定管理に移すなど、世の中が《セメントからヒトへ》移行している情勢に相反しています。

こうしたことから、今また、高山駅西地区に30億円余りの巨額を投じ新たに施設を造り、以後の維持管理費を投入し続けることよりも、明治神宮の森や皇居に学んで、未来に残す郷土の森づくりをすることこそ、未来に生きる子どもたちに対する我々の責務であり、“知恵ある人間”の英断であると考えます。 以上

高山駅西整備計画・高山市総合交流センター検討委員会の会議録等について詳しいことを知りたい方は高山市のホームページをご覧ください。

◎ 高山市 基盤整備部 駅周辺整備課 高山市総合交流センター

<http://www.city.takayama.lg.jp/ekishuuhenseibi/kentouiinkai.html>

アサギマダラマーキング

宝田 延彦

9月4日に予定した「アサギマダラマーキング会」は雨のため中止となった。でも僕個人では8月下旬から9月中旬にかけて数回、御嶽山麓へ出掛けマーキングをしてきた。その中で再捕獲したのが二例。再捕獲されたのが一例だった。(10月10日現在)

N P ハセ川 9・9 (9月9日・長野県大町市)～9月11日・高根町日和田柳蘭峠 (2日間・80km)

M. I 79 8/30 N I G (8月30日・下呂市濁河スキー場)～9月11日・柳蘭峠 (12日間・4km)

タカラダ 36 ヒワダ 9・11 (9月11日・柳蘭峠)～10月9日・和歌山県日高町西山 (28日間・315km)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会の歩み・2

《講師当の肩書きは当時》

平成13年(2001年)

1月20日 「くらがね通信・No3」発行

「乗鞍スカイライン無料化に伴う利用制限についての提言」を発表・提出

3月17日 第1回総会

スライド上映「乗鞍のライチョウと歩んで10年」直井清正 副会長

3月26日 乗鞍スカイライン検討委員会が「開通中の全期間、マイカーを規制する」との最終意見が了承

4月20日 「くらがね通信・No4」発行

5月26日 環境講演会〈高山市役所市民ホール〉

地球環境問題よもやま話「乗鞍岳と世界の空」

講師：石坂隆氏（名古屋大学水循環研究センター助教授）

- 6月10日 サマースキー実態調査・アンケート調査〈乗鞍岳〉
 7月20日 「くらがね通信・No5」発行
 7月22日 運営委員研修会〈畳平〜子の原高原〉
 9月30日 乗鞍岳自然観察会〈畳平〜長野県・乗鞍高原〉
 10月20日 「くらがね通信・No6」発行
 11月24日 (財)日本自然保護協会 50周年記念シンポジウム 〈高山短期大学文化記念講堂〉
 「乗鞍岳の明日を考えるー山岳自然公園におけるマイカー規制のあり方についてー」
 主催：(財)日本自然保護協会・乗鞍岳の自然を考える会
 (サンワみどり基金・全労済助成事業)
 ・基調講演：『美しき日本の自然』立松和平氏（作家）
 ・パネルディスカッション

平成14年（2002年）

- 1月30日 「くらがね通信・No7」発行
 3月16日 第2回総会 シンポジウム報告書発行
 ・講演会 「乗鞍登山史ー乗鞍岳登山の過去から未来ー」
 講師：西村宏一 氏（郷土史家）
 4月20日 「くらがね通信・No8」発行
 5月10日 環境講演会〈高山市民文化会館〉
 「高山帯の自然環境ーライチョウの生活と植生ー」
 講師：西條好迪氏（岐阜大学流域環境研究センター助教授）
 6月 9日 サマースキー実態調査・アンケート調査〈乗鞍岳〉
 7月30日 「くらがね通信・No9」発行
 8月24日 乗鞍岳自然観察会
 10月20日 「くらがね通信・No10」発行
 11月 9日 自然環境講演会〈高山市役所市民ホール〉後援：高山市快適環境づくり市民会議
 「豊かな水辺環境を考える」 講師：飯田洋 会長

会員状況

平成23年9月末会員数 一般 100名、団体 5団体

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円 あなたの知人、友人に 入会をおすすめください	・ 郵便振替 00800-8-129365 ・ 振込先 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会
--	--

くらがね通信 第46号（秋号） 平成23年10月20日発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋
 TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：宝田 延彦 E-mail: nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者：住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供：小池 潜

印刷：アドプリンター